

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成20年2月20日

## 【評価実施概要】

### 1. 評価結果概要表

事業所番号	3171500394		
法人名	社会福祉法人 麗明会		
事業所名	グループホーム ばんだの里		
所在地	鳥取県西伯郡大山町安原1118-1 (電話) 0859-53-3001		

評価機関名	有限会社 保健情報サービス		
所在地	鳥取県米子市西福原2-1-1YNT第10ビル207		
訪問調査日	平成20年1月日	評価確定日	

## 【情報提供票より】(19年12月8日事業所記入)

### (1)組織概要

開設年月日	平成 14 年 8 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	23 人	常勤 18 人, 非常勤 5 人, 常勤換算	19.3

### (2)建物概要

建物構造	鉄骨 造り	
	1 階建て	

### (3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	25,500 円	その他の経費(月額)	43,500 円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	—	
食材料費	朝食	250 円	昼食	400 円
	夕食	350 円	おやつ	円
	または1日当たり 円			

### (4)利用者の概要(12月8日現在)

利用者人数	18 名	男性	4 名	女性	14 名
要介護1	1 名	要介護2	6 名		
要介護3	6 名	要介護4	3 名		
要介護5	2 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 86.5 歳	最低	79 歳	最高	98 歳

### (5)協力医療機関

協力医療機関名	淀江クリニック、いなむら歯科、大山診療所、小山歯科、マリ医院、大山口診療所
---------	---------------------------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

大山町の田園地帯に建てられたグループホームで、その良い条件を利用しての毎日の散歩が入居者の楽しみとなっている。開所5年半になるが、開所時からの入所者もおられ、ゆったりと安心してケアを受けている。要介護度の高い方が比較的多く大変だが、職員は献身的に懸命にケアに取り組んでいる。昨年の秋より管理者が代わり、管理者は今までのこの事業所の良い点を認めながら、偏っていた職員の責任の分担や日常業務の整理、事故報告の記入・検討等の取り組みを始めており、成果が期待される。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目 ①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	改善計画書が作成され検討されていた。定期的カンファレンスを行い、ケアプランの作成にも反映されている。ケアプランに添って日常的なケアと記録する事を職員が意識的に取り組んでいる。
重点項目 ②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	外部評価の改善への取り組みも含めて、この度の自己評価は全員で取り組んでいる。
重点項目 ③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は昨年4月から3回開かれている。今後2ヶ月に1回の開催に向け努力することである。まだ開催による成果は出ていないようであるが、今後討議内容を精査し、サービスの向上に具体的に活かせるものとして欲しい。構成メンバーも再検討の余地があるように感じられた。
重点項目 ④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	職員は家族の面会時に要望を聞くように努めており、特にターミナル期や状態が変化した時の対応には家族の要望を大切にしている。ただ意見箱も玄関に設置してあるが、意見があまり入らない。第三者委員会の設置等の検討される事を希望する。
重点項目 ④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	殆ど毎日利用者の方は散歩に出かけるなど、日常的に地域の住民との交流があり、地域の催し物への参加等も積極的に行われている。認知症の相談に来る住民も出てきており、グループホームが地域に認知される存在となってきている。

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	基本理念の中に「住みなれた地域の中で安心して暮らせる社会を目指します」という文言があり、グループホームとしても「地域と交流し、理解を得ながら職員も介護技術の向上に努めます」という理念を作っている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎日のミーティングでグループホームの介護理念を唱和し、理念の具体化を意識付けている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	公民館祭等の地域活動に参加したり、ボランティアによる大正琴の会や保育園児による遊戯の発表など、併設のデイサービスと共に地域の人との交流を行っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価の結果について、改善計画書を作成して改善項目について取り組んでいる。この度の自己評価は全員で取り組み、サービスの向上に努めている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は昨年4月から3回開催されているが、事業所からの報告が主で、サービスの向上に具体的に生かせる内容の話し合いが行われていない。今後2ヶ月に1回の開催を目指している。	○	運営推進会議の構成メンバーの工夫や呼びかけ等の検討を望みます。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	町役場の保健士が担当する地域包括支援センターが主催している地域ケア会議に参加し、情報交換と連携を取っている。		栄養バランスの良い食事が提供されているが、1年に数回市町村の管理栄養士にチェック・アドバイスをしてもらえるように依頼・承諾を貰っており、今後市町村職員との交流をもっと多く持てるように取り組みが始まっている。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	毎月、機関誌と金銭報告書、担当職員のコメント付きの近況報告を送っている。面会の折にも近況報告を行い、急ぎの場合は電話で対応している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議に家族代表が参加し、意見を言う場を設けている。意見箱も玄関に設置している。	○	苦情相談窓口を管理者のみでなく、第三者委員も地域代表と家族代表の二名追加している。意見箱の設置場所については変更等再度検討して頂きたい。今後家族の意見等を抽出する取り組みが望まれます。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動はあまり無いが、離職等の際には、利用者、家族に報告し紹介している。また、職員の異動・退職により混乱のある入居者に対して、馴染みの職員で対応している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各種研修になるべく多くの職員が参加出来るように勤務の配慮がされている。研修報告も行われている。	○	管理者が職員の質の確保や向上にむけて、全職員の年間研修計画を策定し、多くの職員が研修を受けられる機会の確保の為に、来年度の年次計画策定に組み込む予定である。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修会で他職場の職員と交流したり、近隣の施設を訪問する等している。グループホーム協会はこれから入会の予定との事である。	○	地域のグループホーム協会に加盟し、他施設の職員との交流を図り、総合研修や情報収集等されるとより良いと思われれます。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に見学に来てもらい、入居者や家族から思いや不安を聴くように努めている。家族に面会時間の制限をせず、宿泊してもらおう等の協力を得ながら安心できる場所になる様に工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日常生活の営みの中で職員が利用者に教えて頂けるような場面作りを多く持てるように配慮している。掃除、洗濯物のたたみや食事作り等、できる方には手伝っていただいている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の関わりの中で言葉や表情から汲み取る等、思いや意向の把握に努めている。意思表示の困難な人には家族や関係者から情報を得ることに努め、支援している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	毎月1回カンファレンスを行い、入居者や家族と話し合いながら、意見が反映されているケアプランが作成されている。職員に対しても計画に沿った日々のケアが意識付けられている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月に一回モニタリングを行い、6ヶ月毎に計画の見直しを行っている。変化の生じた時は家族と電話で相談する等して必要に応じて計画を見直している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	入居者や家族の状況・希望に応じて、通院や送迎等、必要な支援が柔軟に行われている。また入院しないで点滴等のケアを提供しながらホームで療養したり、家族と一緒に宿泊出来る様に支援も行っている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は事業所の協力医の他に、本人や家族が希望するかかりつけ医となっている。受診・通院は職員が付き添い、受診後は家族に報告している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	本人や家族の意向を大切に、医師と職員が連携を取り話し合いを繰り返しながら対応している。緊急時の医療機関等の連携も取れている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	日々の関わりの中で、プライバシーに配慮したさり気ない声かけをする様に努めている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の生活の流れはあるが、本人のペースを配慮して柔軟に対応している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員と入居者が同じテーブルについて食事をしている。職員の一人が食べ残しへの声かけをしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴したい日・時間等、本人の希望やタイミングに合わせて実施されている。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者のプライドに配慮しながら食事作りや洗濯物たみ、野菜作り等の仕事を職員と一緒にし、感謝の言葉をかけている。毎日の散歩が楽しみな方も多い。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	雨天以外は近くの神社への散歩が毎日の日課になっている。買い物や外食(居酒屋を含む)ドライブには適宜出かけている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関には鍵をかけていない。安全面に配慮しながら、自由に出かけられる様に支援している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力を得て、避難訓練・消火訓練・通報訓練を年2回行っている。		近隣の住民との共同訓練の実施、食材(水分も含む)の備蓄の準備等を検討されると良いでしょう。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>個別に食事量や水分摂取量を毎日チェック表に記録し、職員間で共有している。食事についてもバランス良く提供されている。</p>		<p>専門職に依頼して、栄養面の具体的なアドバイスを受けられるとより良いでしょう。</p>
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>食堂は生け花や入居者と共に考えて作った壁飾りが飾られ季節感にあふれている。玄関や廊下の数ヶ所にソファが置かれ、入居者がくつろいでいる。温度調節に配慮されたほうが良いかもしれません。</p>	○	<p>共用空間の温度調節が不十分(少し温度が低いよう)に感じられた。四季を感じられる様な配慮がなされていたが、冬季や低温時は利用者への配慮や工夫が欲しいように感じられる。</p>
30	83	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>居室には使い慣れた家具や馴染みの物が持ち込まれており、掃除が行き届いてすっきりとしている。落ち着いた雰囲気である。</p>		